



影絵・朗読・邦楽による

仙人になりたか つた男

芥川龍之介「杜子春」より

平成30年

10月6日(土)

7日(日)



開演時間 全4回公演

10 | 6 (土) ① | 4:00 ② | 7:00

10 | 7 (日) ③ | 3:00 ④ | 6:00

料金 前売 ¥2,000 当日 ¥2,300

会場 広島市東区民文化センター・スタジオ2

【出演】

朗読 多和田さち子
杜子春 マサコ(劇団・pfa 集団【アトリエ/カンパニー】)
演奏 柳田秀潤(箏) 安達秀環(十七絃箏) 住田七重(篠笛)
山口香織(和太鼓)

【特別出演】松本泰子(ヴォーカル)

【影絵デザイン】ウエダサユリ

【影絵制作・操作】ウエダサユリ・赤木奈穂子・石井 忍
是貞麻里子・柴田直美・日高徹郎・伊藤多喜子

【影絵制作協力】世良真紀・高野仁美・隼田聖子

【台本・音楽・演出】和田 啓

【企画・制作】伊藤多喜子(Note Japan 日本之音)

※このQRコードからも
バーコードリーダー機能
を使ってアクセス可能です。
(対応機種のみ)



◎チケットのオンライン予約
<http://www.cf.city.hiroshima.jp/higashi-cs/yoyaku.html>

主催 公益財団法人広島市文化財団
東区民文化センター



《前売予約・お問合せ》広島市東区民文化センター
082-264-5551 広島市東区東蟹屋町 10-31 (月曜日休館、祝日の場合は開館)

「ノートジャパンの邦楽ノート」は、邦楽(日本の伝統音楽)の魅力斬新な切り口で紹介するサロンコンサートとして2000年にスタートしました。2016年度からは地元有志を中心に文学作品の朗読・影絵・邦楽の生演奏でひとつの舞台作品を作る試みを続けています。今回は朗読に加えて役者も加わり、より演劇的な表現で物語を紐解きます。影絵はインドネシアの民衆芸能ワヤンから着想を得た素朴なスタイル。音楽はすべて和田啓氏が書き下ろしたオリジナル曲で、和楽器の音色を最大限に活かしながらも「いま」の感覚で物語世界を表現しています。

杜子春の心の成長を描く物語



仙人になりたかった男

芥川龍之介「杜子春」より

影絵・朗読・邦楽による



和田 啓

(台本・音楽・演出)

幼少の頃から学んだ江戸里神楽をもとに独自の音世界を表現するアジア系ハンドドラム奏者、作曲家。1990年にバリ島に渡り、民族音楽であるガムランを学ぶ。のち、アラブ古典音楽において重要な位置を占める打楽器レク(アラビックタンバリン)をエジプト・カイロにてハニー・ベダールに師事、現在はメイン楽器として演奏している。作曲家としての近年の主な作品には2010年「現代狂言IV・コンカツ」(作・演出/南原清隆、野村万蔵ほか)、2012年「朗読劇・天守物語」(演出/野村万蔵、天守夫人/松坂慶子)、2013年能登演劇堂ミュージカル「たぬき御殿」(演出/原田一樹)、2014年俳優座70周年記念公演第一弾「東海道四谷怪談」等がある。2009年度より船橋市文化芸術ホール芸術アドバイザー。

学習院大学大学院人文科学研究科博士課程修了。2005年より文学作品の舞台朗読を中心に活動。2008年舞台経験者のための朗読勉強会 Reading Notte を立ち上げ、作品分析や朗読技術の研鑽に努める。2009年から ReadingNotte 公演「朗読夜会」の構成・演出・出演を重ね、2018年6月「朗読夜会第七夜〜国貞えがく〜」に至る。観客参加型の試演会「ちょっと聴いてみよう」会も8回を数える。邦楽ノートには2014年度から朗読者として参加。Reading Giorno 代表、ユニット 詩音〜うたね〜、朗読サークル彩所属。朗読講座講師。広島演劇協会会員。



多和田さち子
(朗読)

特別出演：

松本泰子(ヴォーカル)

大学卒業の頃ジャズヴォーカルと出会い、伊藤君子氏に師事。1990年を境に様々な民族音楽と出会う機会に恵まれ、その中から自分の生まれ育った風土をもう一度自分の声で表現しようと、ジャンルにとらわれず日本の童歌・民謡をはじめアラブ古典、そして自らの作詞作曲によるオリジナル等も手掛ける。2012〜13年 佐藤允彦氏による「ランドゥーガ〜スリランカ公演」に参加。2014年 斎藤徹氏による「オペリータ〜うたをさがして」全国ツアーに参加。近年はヴォイストレーナーとしての評価も高く、ヴォーカリストのほか様々な演劇やミュージカル俳優のトレーナーを務めている。

●徒歩
JR広島駅新幹線口から
約900m(約10分)
※線路沿いの道をお通りください

●広電バス
広島駅経由
県庁〜府中方面(2号線)
(2番表示のバス)
東区役所前バス下車

